Yamato Municipal Hospital　大和市立病院　広報誌

びょういん発

2025 年
1 月
No71

手術支援ロボット（ダヴィンチ）を導入しました！
～3科からのご紹介です～

・消 化 器 外 科

【消化器外科のダヴィンチ手術について】
当科ではロボット支援下手術を大腸外科手術より開始していきます。従来からほとんどの大腸外科手術を腹腔鏡下に安全に行ってきました。ロボット支援下手術は腹腔鏡と比べるとより精緻な手術が可能です。特にがんの手術においては根治性の向上が期待できます。ロボット手術は手術用鉗子の先端が多関節であることから人間の手首のように自由に動くこと、高解像度 3D画像と手ぶれ防止機能により繊細な手術操作が可能です。特に骨盤内など狭い領域での手術に有効です。当科ではロボット手術のこれらの特徴・特性が最大限に発揮される術式である直腸切除術・切断術においてロボット支援下手術を開始します。
精緻な手術は根治性だけでなく臓器機能温存（直腸手術においては骨盤神経叢温存により排尿・性機能の保持や早期回復）が可能となり術後の QOL の向上が期待出来ます。
当術式は当院では新規導入であるため安全に導入し安定した手術として地域の皆様に先進的な医療が提供出来るように努力していきます。また今後も従来通り腹腔鏡手術は行っていきます。当院での術式の適応を厳格に定め、安全に安心な手術が提供できるように努めてまいります。
将来的には結腸癌手術や他の領域の手術に適応を拡大していきたいと思っていますのでどうぞよろしくお願いいたします。

・泌 尿 器 科

待望のロボット支援下手術導入です。これまでの腹腔鏡下手術と同様に安全確実かつ、より緻密でクオリティの高い手術が提供できるようになりました。当科では 10 月よりロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘術から導入し、11 月下旬時点で 10 例施行、ロボット手術の恩恵を実感しております。具体的には高画質３D の拡大視野により、より細かい繊維・解剖が認識できるようになったこと、鉗子操作は人より関節可動域が広く、手振れ抑制やモーションスケーリング（術者の動きを縮小して鉗子に伝える）により、緻密な操作ができるようになったこと、術者は座位で行うので疲れが少ない事、ロボートアームの助手鉗子が動かない・ぶれない等が挙げられます。
これで前立腺癌に関しては、ロボット支援下手術、放射線治療（IMRT＋spaceOAR）、薬物療法（新規ホルモン、抗がん剤、個別化医療）等どのステージの方にも最先端の標準医療の選択肢が提供出来るよう

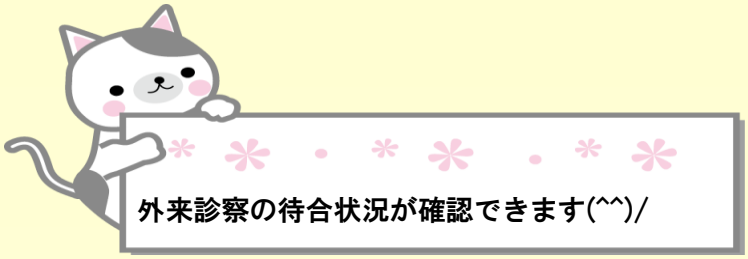
これまで同様、個々の患者さんの病状や生活、ご希望にそって相談しながら治療方針を決めてまいります。
また現在は腹腔鏡下手術で行っている、腎がん、膀胱がんに対するロボット支援手術も適宜導入していきたいと思っております。
今後も地域の基幹病院として最善の医療を提供していきたいと思います。PSA 異常値等、泌尿器科疾患が疑われる場合は当科受診をご検討いただけたらと思います。よろしくお願いいたします。

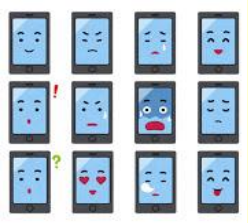
･婦 人 科

Da Vinci 手術開始について
2024 年 8 月末，ついに大和市立病院に Da Vinci X が搬入されました！
Da Vinci はロボット支援手術を行うためのロボットです．Da Vinci で行われる手術自体はこれまでの腹腔鏡，胸腔鏡手術と大きな違いはないのですが，ロボット支援手術では，より拡大した視野が得られるため細かい手術操作が可能となり，出血量の軽減が期待でき，また，患者の術後の創痛が少ないといわれています。
搬入後、約 1 ヶ月のトレーニング期間を経て、10 月 9 日に泌尿器科の 1 例目が、10 月 17 日に産婦人科の 1 例目が、11 月 25 日に消化器外科の 1 例目が行われ、11 月末時点で、泌尿器科、産婦人科、消化器外科合わせて 16 例のロボット支援手術が行われました。
今後も積極的に症例を増やすよう担当各科努力させていただきます。皆様ご支援よろしくお願いいたします。

脊椎の病気の治療について

脊椎は私たちの体を支える重要な骨格であり、脊髄を保護する役割も果たしています。しかし、加齢や生活習慣、運動不足、過度な身体の酷使などが原因で脊椎に関連する様々な病気が発生することがあります。代表的な疾患として腰部脊柱管狭窄症、腰椎椎間板ヘルニア、骨粗鬆症による圧迫骨折などがあります。これらの病気は腰痛や下肢の痛み･しびれ、歩行障害など日常生活に大きな影響を及ぼす症状を引き起こします。
もしこういった症状が生じたら整形外科にご相談下さい。問診・身体所見やレントゲン･CT･MRI など画像検査などから正確な診断を目指し病状に応じた治療を提案します。
治療には大きく分けて保存療法と手術療法があります。保存療法では薬物治療･ブロック注射･装具療法･リハビリテーションなどを組み合わせ、症状の緩和と機能の改善を図ります。また姿勢改善や筋力強化を目的とした運動療法も再発予防に有効です。
保存療法で十分な効果が得られない場合や症状が悪化している場合には、手術を検討します。
当院では 2024 年 4 月から脊椎の手術患者の受け入れを再開しております。
脊椎の病気でお困りで、手術を含めた治療の相談をしたい方もどうぞお気軽に当院へご来院ください。
皆さまの健康な生活を支えるお手伝いをいたします。





外来診察待合番号表示アプリ「Sma-pa（スマパ）」の導入

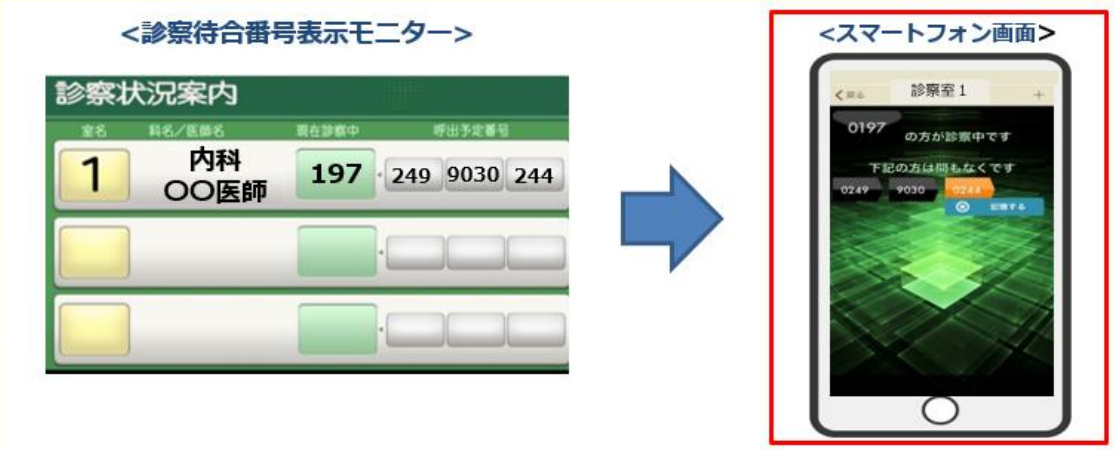
大和市立病院では、外来における待ち時間対策の一環として、お手持ちのスマートフォン等から専用のアプリをインストールすることで、「診察の待合番号」を確認することができる***外来診察待合番号表示アプリ「Sma-pa（スマパ）」***を令和６年１０月から導入しました。

これにより、各科外来の診察待合番号表示モニターから離れた場所でも、外来診察の待合状況が確認できるため、混雑時の待合場所や待ち時間を有効的に使うことができます。

また、当日の受付番号を登録することで、スマートフォンのプッシュ通知機能から順番が来たことをお知らせすることも可能です。

なお、診察待合番号表示モニターを使用していない一部診療科については、アプリ上でも「診察の待合番号」は表示されませんのでご承知おきください。

当院では、市民の皆様から信頼される地域の基幹病院として、良質かつ適切な医療サービスを提供するため、引き続き待ち時間対策の改善に取り組んでまいります。



アプリのインストールはこちらから↓↓

Available on the App Store　Get it on Google play　「待合番号」で検索　病院外来アプリ・スマパ　Sma-pa

※アプリのご利用方法など、詳しくは当院ホームページや院内のチラシをご覧ください。

不顕性誤嚥をご存じでしょうか？

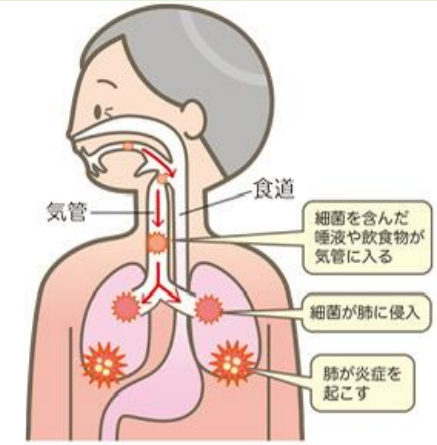
リハビリテーション科

誤嚥という言葉は知っている方も徐々に増えてきているように思いますが、不顕性誤嚥という言葉はまだ多くは知られていないという印象があります。患者さんやそのご家族からも初めて聞いたとおっしゃる方が多く、知らない方が大半だと思います。

誤嚥とは、食べ物が上手く飲み込めないために本来は食道を通るはずの飲食物が誤って気管に入ってしまうことです。その際に、健常の方であれば咳をする反射が起きて喀出しようとするのですが、喉の感覚が低下するとその反射が起こらず、一見問題なく食べられているように見えるのです。それが不顕性誤嚥です。そのまま食べ続けていると、気づかないうちに肺炎となり、重症化してしまう場合があります。

当院では誤嚥性肺炎のリハビリ依頼が多く、言語聴覚士が食事評価や訓練をしていますが、不顕性誤嚥の方の人数は少なくはないです。特に、高齢者や脳血管疾患、神経難病のある方の割合は多いです。

不顕性誤嚥による肺炎が重症化する前に早めに医療機関を受診することが大切です。問題なく食べられているように見えても、痰が増える・熱が出る・咳が出る等の症状があれば、誤嚥している可能性があるということをぜひご承知おきください。



がんサロン　山ざくら　～患者サポートセンター

がん患者及びその家族が心の悩みや体験等を語り合うための場として[がんサロン]があります。当院ではピアサポーターの方々の協力を得て年４回開いています。これまで「がんサロン」という名称で開催してきましたが、少しでも親しみを感じていただけたらという思いから、サロンに名前をつけました。ピアサポーターの方から提案いただき「がんサロン山ざくら」と名付けました。名前の由来を病院ホームページの[がんサロン]に掲載していますので是非ご覧ください。毎回２時間弱の時間で前半はミニ講座、後半は交流会としています。参加された方々からは、「同じ病気の経験をした方々と交流ができてよかったです。」「色々な方のお話が聞けて、より前向きな気持ちになります。」など感想をいただいています。ミニ講座のテーマをご参加くださった方の声を聞きながら企画しています。参加無料・事前申込不要です。どうぞ気軽にご参加ください。お待ちしています。

大和市立病院　〒242-8602　神奈川県大和市深見西８丁目３番６号　Tel　046-260-0111
https://www.yamatocity-mh.jp/index.php　発　行　人：病院長　石川　雅彦　発行責任者：担当部長　永井　浩巳